

2025.12

患者様のお声

～がん緩和ケア～



世田谷区在住 A様（膵臓癌のご主人をご自宅で看取られた奥様）

「様々なプロに支えられ、主人も最期まで穏やかに、周りに心配をかけないよう気遣ってくれたと思います。」

ふくろうクリニックを選んだ決め手 「緩和ケアと多科診療」

主人のがんの進行に加え、自分の通院時もタクシーがなかなか拾えないので大変で、訪問診療を検討しました。夫婦で診ていただきたかったので、緩和ケアだけでなく、眼科・皮膚科・整形など多科診療でお薬を処方いただけることが決め手となりました。

最初はとても不安でしたが、様々なプロに支えられ、不安なく在宅療養・介護ができました。

主人は何度か入院を繰り返しており、最後の入院は、痛みのコントロールが目的でした。ただ、やはり家に帰りたいという希望があったのと、転院するにも遠くでは通えないと考え、長男と自宅で療養することを決心しました。

とはいっても、療養開始にあたっての様々な事業所との契約締結の時点で、自宅に何人の方がお越しになり、それだけでとても大変に感じました。また、訪問診療、訪問看護、訪問介護の各訪問予定を見ながら、毎日のスケジュールを立てるのも大変でした。

ただ、先生、看護師さん、ヘルパーさん、皆様のプロ意識が高く、連携した、とても素晴らしい支援を受けました。クリニックへは、特に退院したては何度もお電話してご相談し、365日24時間の対応を本当にありがとうございました。

介護の実際

先生からは、だんだん食べられなくなりますと言われていましたが、自宅に戻ればもう少し元気になってくれるのではないかという気持ちもありました。

退院直後は、おかゆに鮭フレークをのせていましたが、そのうちに好きだったプリンももういい、と。ただ、ある時、緑茶にとろみをつけたところ「まずい、あなたも飲んでみなさい。」と言われました。本当に美味しくなかったので、お茶にとろみをつけるのはやめ、自分の加減で飲んでもらうことにしました。病院ではなかなかできなかったことだろうと思います。

また、主人は、痰はできるだけ自分で出したり、吐き気があってもこちらの準備が整うまで待っていてくれたり、私への配慮もたくさんありました。

ケアマネジャーさんは、ご自宅でどこまで介護できるか、心配されていたようです。

先生からも、様々な事態に備え、緩和ケア病棟の申し込みを勧められ、予約済みでした。確かに、この暑い夏をどう乗り切るか不安だったので、退院してから4か月間という短期間だったから最期まで自宅で療養できたのかもしれません。

主人は、最期までこちらのことを気にかけてくれたと感じます。

最期に向けて

先生に、耳はよく聞こえるので別室で話しませんかと声をかけられ、あと1週間くらいかもと言われた際、実感は全然ありませんでした。

ただ、おかげで会わせたい人たちに声をかけられ、近所の方を中心に来ていただきました。

私は、自宅で看取ったからか不思議なくらい後悔がありません。振り返れば、病院ではトイレも行かせられないし、本人が話すこともありませんでしたが、自宅では、旅によく行っていたのを思い出しながら一緒にテレビを見て少し会話をすることもありました。

現在

私は引き続き訪問診療を受けながら、心配なことは先生に相談しながら生活しています。普通だったら泣き崩れたかもしれません、主人のためにも元気でいなければと思っています。

主治医からのメッセージ

ご主人は、奥様と長男さまのお嫁様に支えられて約4ヶ月間、最期までご自宅で療養されました。

退院直後は、奥様の中で「傾眠がちだが、どうしたらよいか?」「食事を食べさせてあげたいがどうしたらよいか?」などたくさんの疑問や不安などがあったと思います。訪問診療開始後1-2週間は奥様から当院へのお電話での問い合わせも多くいただきましたが、皮下点滴が始まり訪問看護師さんが連日訪問されるようになると奥様の相談相手も増えて、様々な心配がひとつずつ解消されていったようでした。当院としても診療のたびにご心配なことなどがないか、帯同看護師とともにご家族に伺う機会を持つことを大切にしながら診療にあたりました。

お別れはいつか来る、避けがたい悲しいイベントですが、奥様はじめご家族にとって、大切な思い出、これから日々を過ごしていく中での前向きな糧ともなったのではないかと感じています。

(奥様の主治医は別の医師ではありますが) 奥様も当院訪問診療を利用されており、引き続き当院スタッフ全員で奥様とともに前に進んでいきたいと思っています。

ふくろうクリニック等々力副院長 千葉 創



ふくろうクリニック等々力
世田谷区等々力3-5-2
ヒューリック等々力ビル3F
電話 03-5758-3270
2025年12月作成